



## 2023 年度事業報告書

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

一般社団法人こころスマイルプロジェクト

当団体は、東日本大震災で家族（親・きょうだい）を亡くした子どもたちや、自死・事故等で、突然親を亡くした子どものグリーフケア、ネグレクト・ヤングケアラーの子どもたち等、こころに深く傷を負った子ども一人ひとりに寄り添ったこころのケアを行っている。今年度は、7名の子どもたちが中学・高校を卒業し、4月から大学(2名)専門学校(1名)高校(4名)と、新たな学びの場でスタートを切りました。

不登校支援では、高校生（震災遺児）が、拒食症と起立性調節障害による連続不登校となり、訪問及び拠点での会話やセラピーを通じてこころの回復をサポートし、対面及びオンラインでの学習支援を実施。復学後は、大学受験のサポートを行い、諦めていた大学へ見事合格することができた。心の安定も進み、学習支援ボランティアとして当団体の活動にも積極的に参加してくれた。

自死遺児家庭では、自死現場目撃による PTSD ケア、アートセラピー、グリーフケアと並行して、ネグレクト・ヤングケアラーの改善に向け、衣食住支援、通院サポートの他、親の意識改革に努めた。また、家事・育児を担う子どもへ学習支援を行い、勉強の遅れを取り戻すと同時に、家庭内でも自分の時間を作れるよう、オンライン学習も行い、見事希望の高校へ入学することができた。

震災孤児、遺児は、定期的に見守り訪問と SNS での相談を行い、家庭環境や子どもの状況を確認し、子どもや保護者の SOS を見逃さぬよう努めた。

グループ活動では、「子どもの権利条約ワークショップ」を実施し、家族を亡くした子どもたちが、「生きる権利」「学ぶ権利」について話し合い、3月に京都で行われた「国連子どもの権利条約シンポジウム」に代表2名が参加し、まとめた意見の発表と、課題解決に向けた国への提言を行った。練習や発表を通じて、自己肯定感が低い子どもたちが自信を高め、自分を認めるきっかけとなった。

団体としては、継続して支えてくださる子どもサポーター会員の皆様はじめ、個人・団体のご寄付の他、みやぎチャレンジプロジェクトを通じて多くの方々より募金を賜り、目標金額には届かなかったが、来年度の助成金を獲得することができた。寄付を通じて、子どもたちに心を寄せ、活動を支えてくださる皆様へ感謝している。

## 1. 子どもサポート事業

災害・自死等で、家族を亡くした子どもたちや、不登校や怠学でひきこもりがちな子どもを対象に、アートや遊びを通じて言語化できない気持ちを表出し、子ども同士の交流を通じて、①自己肯定感を養い、逆境から立ち直る力（レジリエンス）②対人関係、学校・社会生活に必要なコミュニケーション能力③自己肯定感を高め、イニシアチブを発揮できる主体性が養われるよう活動を実施する。

### ① 個別サポート事業



家族を亡くした子ども・リストカット・精神疾患を発症した子ども等、心に深く傷を負った子どもを対象に、一人ひとりの心の状態・年齢に合わせたアートセラピーを実施し、ストレスや言語化できない不安や悲しみを表出させた。必要に応じて保護

者と共に遊びやアートを実施しすることで、保護者にも癒しの時間を提供すると同時に、子どもの不安感情や気持ちに気づき、親子の絆を深め、子どもが安心して過ごせる親子関係、家庭環境をサポートすることを目的に行った。

実施日数：88日／参加のべ人数：子ども88名・保護者4名

### ② 家庭訪問事業

不登校（ひきこもり）や、前年度までに復学した子どものフォローアップ訪問、家族を亡くした子どもたち（孤児・遺児）と、情緒不安定の子どもたち、ネグレクト・ヤングケアラー家庭の訪問を実施した。

不登校訪問：96日、延べ115件、見守り訪問（遺児・孤児，ネグレクト，復学児童など）38日、延べ73件、命日弔問：延べ18件



### ③ 学習支援

不登校及び、震災後30日以上連続不登校期間がある子どもや、経済的困難、ネグレクト・ヤングケアラー家庭の子どもたちで、学習意欲はあるが塾などの学校外教育投資を十分に行えない子どもに対し、個別補習を行い、公立高校・大学入試に必要な基礎学力の定着と向上に努めるため実施した。

今年度実施対象・人数（中学生3名、高校生2名）

実施方法：活動拠点・訪問での対面指導、オンライン学習支援

実施回数：281回 実施延べ人数：288名

### ④ 保護者相談

保護者（親や養育者）に対して相談事業を実施。保護者の日常的なストレスを軽減することで気持ちに余裕ができ、子どもに対して優しく接することができます。結果、子どもの心の安定に繋がり、健全な成長を促すと考えています。

相談件数：1095 件 面談（カウンセリング・子育て相談）、訪問（傾聴・家庭状況の確認）、電話・メール・SNS 相談

## 2. グリーフケア事業

### ① 家族を亡くした子どものグリーフケアプログラム

遊びや会話を通じたグリーフケアプログラムを開催。

震災・自死・病気で家族を亡くした子どもたちが参加した。

実施日数：48 日／参加のべ人数：241 名



### ② 子ども食堂

家族を亡くした子どもたちは、2人きりの寂しい食卓や、父子家庭は帰宅が遅く、子ども一人で食事をすることも多い。母親を亡くした子どもたちの多くは、料理経験がなく野菜や食材の名前を知らない。料理教室や食育を兼ねて、一緒に調理を行い、アットホームな雰囲気ですべてを囲み食事をする楽しさを味わうことで、こころの安定と健康増進に寄与することを目的に実施した。今年度はコロナウイルス感染拡大で毎月実施できなかつたが、スタッフと共に調理をし、アットホームな雰囲気ですべてを囲み、家族のような雰囲気ですべてをする楽しさを経験で



きた。仕事帰りの母子・父子家庭の親や養育者（祖父母）も参加し、子育ての悩みを共有したり、ビンゴ大会を楽しんだり、日ごろの疲れを癒す場となった。

実施回数：6 回 参加延べ人数：38 名（子ども 35 名・保護者 3 名）

### ③ イベント

クリスマス、卒業式、誕生日などイベントや節目になる行事は、子どもたちにとって嬉しい反面、亡くした家族との思い出がよみがえり、悲しみや恋しさ、時には怒りに似た感情を引き起こすことがある。同じ境遇の子どもたちでイベントを楽しみ、卒業を祝うことで「ひとりじゃない」ことを認識する。また誕生日を祝うことで、生まれてきたこと、生きていることを肯定し自己肯定感を高めます。

実施回数：8 回、参加延べ人数：子ども 47 名・保護者 2 名



6/17 (サッカー観戦) 7/8 (野球観戦) 8/6 (夏祭り)  
10/15 (子どもの権利条約ワークショップ) 10/22 (ハロウィン) 12/22, 12/24 (クリスマス) 2/4 (豆まき)  
誕生日会 : 6/25、8/6、10/15、12/24、3/14

④ 子どもを亡くした母の会 (ピア・カウンセリング)

震災で子どもを亡くした母親を対象にお茶会を開催し、同じ境遇の母親同士、気持ちを分かち合う場を提供している。 実施回数 6 回、参加延べ人数 : 23 名

3. 学校連携事業 (駄菓子ワゴン・買い物教室)

東日本大震災の影響で、商店が再開しない地域の小学校で、  
ダミーのお金 (500 円) を用いて、自分で計算しながら予算  
内で駄菓子を購入する体験を通して、①算数教育の大切さ  
②挨拶などの社会生活に必要な基本的マナー ③レジでのやり



り取りでコミュニケーションの大切さに気づき、学ぶ場として実施している。

<実施校>石巻市立大原小学校・石巻市立寄磯小学校・石巻市立雄勝小学校・石巻市  
学びサポートセンターコイル (市が運営するフリースクール)

- ① 大原小学校では、昨年続き実施前に学習講和を行った。今年度は「駄菓子屋ワゴンを始めたきっかけと、震災から現在の活動」について話をした。今年度は、寄磯小学校の生徒 2 名も参加し、寄磯への給食や物資支援の話もした。子どもたちは興味深く、真剣に話を聞き、質問や感想を発表してくれた。駄菓子屋ワゴンでは、真剣に、楽しそうに駄菓子を選んでいった。当日参加した外国人ボランティア 3 名 (フランス・フィリピン・コロンビア) とレジやピタリ賞で、英語でやり取りする場面もあり、挨拶、算数計算、英会話、コミュニケーションの大切さを、体験を通じて学んだ。
- ② 雄勝小学校では、上級生が初めはレジを担当したいと申し出てくれ、下級生の会計を行った。下級生が買い物終了後レジを手伝い、上級生が優しく教えながらサポートするなど、学校全体の雰囲気がとてもよく、子どもたちも穏やかで終始笑顔で買い物や店員役を楽しんでいた。終了後に、駄菓子屋をはじめたきっかけが、震災の年、雄勝小学校の遠足であったこと、給食支援や、雄勝地域への支援活動の話をした。
- ③ 学びサポートセンターコイルでは、不登校の小学生・中学生と職員 30 名が参

加。開始前から駐車場の雪かきをして待っていた子どもたちが、荷物の搬入を手伝ってくれ、買い物体験を楽しんだ。フリースクール内でも別室登校（他の子どもたちと交流が困難）の中学生は参加が難しいとのことであったが、他の生徒が終了後声をかけに行くと来てくれ、一緒に買い物しながら少しずつ笑顔も見られ、好きなお菓子の種類を教えてくれるなど会話もできた。帰りは、振り向いて微笑みながら手を振ってくれた。終了後も名残惜しそうにスタッフと会話をしたり、お礼の手紙を書いてくれたりと、他者との交流、コミュニケーションを図る良いきっかけとなった。

#### 4. その他

##### ① 子どもの権利条約ワークショップ



家族を亡くした子どもたち（10才～17歳）が、第6条「生きる権利、育つ権利」第28条「教育を受ける権利」29条「教育の目的」について、課題と解決方法について話し合いを行った。

##### ② 子ども自身が話し合う「国連子どもの権利条約」シンポジウム 佛教大学総合研究所公開シンポジウムが京都で行われ、代表2名が参加し、石巻での話し合いのまとめを発表した。



##### ③ カレンダー制作

ファーウェイジャパン株式会社様が制作するカレンダーに子どもたちが描いた季節の絵を採用していただいた。作品がカレンダーとなり、全国のユーザーへ配布されることで、子どもたちは喜びを感じ、自己肯定感を高めることができた。

##### ④ テイラー文庫寄贈

テイラー・アンダーソン記念基金より、本棚3台と図書券を寄贈頂いた。子どもたちが書店で本を選びテイラー文庫に並べた。



##### ⑤ チャリティー絵画展



東京都の絵画教室アトリエ・エビス主催のサムホール展に参加。絵の売り上げは、ウクライナ大使館を通じて戦争で日本に避難中のウクライナの方々への支援に使用して頂いた。

##### ⑥ 能登半島地震支援

被災した珠洲市の施設へ、水、タオル、家具（テーブル2台）コーヒーマーカー、ポット、米びつ、調理器具等を届けた。

以上